

平成27年度図書館事業評価

	【事業内容】	【5年間の獲得目標(26～30年度)】	27年度目標	図書館評価(一次評価)	図書館協議会評価(二次評価)
1 成人サービス	1 利用の拡大を行うため、中央館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。	・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。 ・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。 ・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせます。	芝久保図書館の書架の入れ替えにより、収蔵能力を増やし、資料の保存スペースを確保すると共に、課題解決支援など各種サービスに取り組むために、中央図書館の開架スペースを有効活用できるよう整備します。	芝久保図書館の書架の入れ替えにより、収蔵能力が約6,000冊増加し、中央図書館などで利用頻度の落ちた辞典や文学全集を移しました。 空いたスペースには近年発行された全集等を配架し、より利用者が手に取りやすい環境を整備しました。	・資料保存のための継続的な取り組みを評価します。重複資料等の廃棄は引き続き進めていただくとして、西東京市全体に一点しかない資料については、十分慎重に扱っていただきたい。資料収集に関しては、ノンフィクション分野の充実を図っていただきたい。
	2 市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。	健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。	健康医療情報の収集方針を検討し幅広い蔵書構築を目指します。	平成27年度は、中央図書館の健康医療情報の充実に努めました。基本的、全般的な内容の資料に加えて、個別具体的な課題の解決に資するため、認知症やガンなどの社会的関心が高いテーマについて、体験記や専門的な内容の資料の収集に取り組みました。これにより、健康・医療系図書は、中央図書館の蔵書全体の3.3%を占め、また、蔵書回転数は、前年度5.3回から5.8回と増加しました。	・健康医療情報に関しては、高齢化でニーズも高まっているので充実を図るとともに、最新資料への更新にも配慮いただきたい。「食」に関する情報(雑誌等)も一層の充実をお願いしたい。
	3 成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。	他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。	青年期サービスの充実を目指します。	青年期に必要な実用書として英語・資格試験に関する資料や就職に役立つ資料などを蔵書に加えることで、同年代の利用を促しました。実績は、貸出回数は2,648回/220冊となり、蔵書回転率は資料全体での2.6回に対し、12回強と利用が増加しました。また、武蔵野大学文学部1年生の授業で青年期サービスのPRをすると同時にアンケートを実施し、今後の書架構成に活用していきます。	・英語、資格試験、就職など実用的資料の利用が増えたということで、実施計画通りの充実が図られています。アンケート結果の活用に期待します。 ・資格、就職に関するものの充実は、全世代に共通して需要があると思います。今後ともアップ・ツー・デートな資料の充実と、青年期サービスの広報、一般書架への誘導も工夫していただきたい。
2 レファレンスサービス	4 ・レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。 ・書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。	開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新(資料の除架・除籍、移動、購入等)を順次実施します。	・レファレンス開架書架の横積みを解消するため、芝久保図書館、谷戸図書館レファレンス書庫の除籍を進めます。 ・新聞縮刷版を整理して、各館のレファレンス書庫容量を確保し、レファレンス開架資料と合わせて資料の提供に活かします。	・芝久保図書館及び谷戸図書館のレファレンス開架や閉架書庫の所蔵資料を見直し、一部を中央図書館レファレンス書庫に移すなど、整理しました。 ・保谷駅前図書館、芝久保図書館、谷戸図書館に所蔵していた新聞縮刷版について、谷戸図書館新書庫に集中収納し、3館の書庫容量を確保しました。これにより、各館のレファレンス開架資料を順次書庫に収納し、レファレンス開架の横積み状態を解消して資料の提供を容易にしました。	・レファレンス資料(開架)は、資料も取り出しやすくなり改善されたが、重複資料等の除籍等によるスペース確保だけではなく、レファレンス資料専用の書庫の新設など抜本的な解決策を望みたい。
	5 ・利用者へレファレンスサービスをPRし、利用者には有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。 ・情報弱者の解消に向け、利用者役に役立つ方策について検討し、具体化します。	利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機(OPAC)の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、5年間で100回以上の実施を目標とします。	・国立国会図書館アーカイブ資料データベースの閲覧を、中央、保谷駅前、柳沢、ひばりが丘図書館で実施し、利用を始めます。 ・利用者を対象とした有料データベースの使い方講習会を職員が講師となり、実施します。	・国立国会図書館アーカイブ資料データベースの閲覧を、平成28年1月から、中央、保谷駅前、柳沢、ひばりが丘図書館で実施し、図書館ホームページでの利用のPRを始めました。 ・利用者を対象とした有料データベース(朝日新聞データベース 開蔵Ⅱビジュアル)の使い方講習会を、職員が講師となり実施し(中央図書館で計4回開催、参加者数計18人)、講習会後のアンケートでは、参加者の9割から高い満足を得ました。	・新聞等の有料データベースや国会図書館デジタルコレクション等のサービスが西東京市図書館で利用できることを知らない利用者も多く、はじめての利用者や不慣れな利用者に対しても、十分な広報と普及活動を行い、講習会参加者の増加を図る工夫を行っていただきたい。 ・雑誌・新聞データベースの講習会については、国会図書館のサービス内容が拡大しているので、使用方法だけでなく、雑誌・新聞データベースを活用した取り組み事例の紹介も行っていたきたい。
	6 ・職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。 ・外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。	職員・嘱託員の研修を充実させるため、25年度(200時間)比5%ずつの増加を目標とします。	平成25年度実施時間数200時間の10%増(220h)を達成します。	26年度に続き、嘱託員に、レファレンス問題の出題および個人々人への添削指導、回答も含めた研修を実施。総時間179時間(のべ出題問題数179問×1時間)実施しました。職員・嘱託員に、有料データベース講習会(1人1回1.5時間)を実施、総時間92時間の研修を実施しました。目標は基準値の10%増(220時間)に対し、36%増(271時間、達成率123%)となりました。研修の結果、基礎的なレファレンス資料30点の内容および使い方の習得ができ、クイックレファレンスへの対応が可能となりました。	・研修の機会が保たれている点を評価します。引き続き研修の機会が確保されることを望みます。 ・時間数も大事だが、職員のスキルはどのくらい上がったのか。その点の把握が必要です。 ・職員・嘱託員への研修について、さまざまな形態・方法を工夫し更なる充実を図っていただきたい。他館の視察・報告なども研修の一環として取り入れていただきたい。 ・レファレンスサービスの広報ももっと必要です。
	7 外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。	・外国語資料を5年間で300冊購入します。 ・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を10%とします。	・欧米言語の絵本を購入します(50冊)。 ・欧米言語以外の資料の入手方法の調査・検討および書誌データ入力方法について、検討・決定します。	・27年度、欧米言語の児童書を87冊購入し、うち絵本の購入は62冊(目標比124%)で、目標を達成しました。利用者の「季節の絵本がほしい」との要求に応えるため、四季、ハロウィン、クリスマスなど、季節や行事を題材にした絵本の購入を重点的に行いました。まだ冊数は少ないため、次年度以降も継続して購入していきます。 ・欧米言語以外の資料の入手方法について調査を行いました。主にアジアの言語資料について取り扱いのある3社をピックアップし、今後もこの分野の出版情報の入手に努めます。書誌データ入力方法については、多言語資料を多く所蔵している図書館のデータを確認しましたが、西東京市図書館としての入力方法の決定にはいかなかったので、28年度に決定します。	・日本語以外の児童書の購入と合わせて、日本語の児童書を外国語でも見られるような特別な工夫を、多文化共生の支援団体などと協力の上具体化していただきたい。 ・欧米言語児童書の充実を評価します。欧米言語以外の資料の充実については、コストの見合いを図りながら現実的な方法で実現していただきたい。

	【事業内容】	【5年間の獲得目標(26～30年度)】	27年度目標	図書館評価(一次評価)	図書館協議会評価(二次評価)
3 児童・青少年サービス	8 ・ヤングアダルト資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成25年度ではYA購入冊数の19%であったノンフィクション資料を、前年度比2%程度増を目安として購入をすすめます。 ・平成26年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に1回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。	ノンフィクション資料の充実を図るため、5年間でノンフィクション資料の購入目標を、YA購入冊数全体の30%とし、それを維持します。	ノンフィクションの充実を目指し(23%購入目標)、YA利用者が興味を引く広いジャンルの蔵書を目指します。	平成27年度は、YA購入対象資料991冊のうちノンフィクションは397冊(40%)購入しました。 成人サービス担当者との共同選書により、一般向けながら平易なものをYA向けの蔵書としました。中央図書館は岩波ジュニア新書を中心に買い替えを行いました。各館でも古い資料の買い替え等を行い、資料の新鮮度を高めました。27年度後半に集中的に購入を行ったため、買い替えの効果については、28年度検証していきます。	・YA対象のノンフィクション作品の一層の充実を期待します。また、児童文学を一般向けとして文庫化した作品や古典作品の新訳など、ライトノベル文庫以外の分野も積極的に収集し充実を図っていただきたい。 ・YA担当者による選書によって内容が充実した点を評価するとともに、成人サービス担当者との共同選書の試みは大いに評価できます。今後に期待します。
	9 ・おはなし会の充実を図ります。 ・行事のPRについて充実を図ります。	・全館での1・2歳児向けおはなし会を実施します。 ・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。	・中央図書館1・2歳児向けおはなし会の回数増加(月1回→2回)、ひばりが丘図書館の3歳児以上向けおはなしひろばの回数増加(月1回→2回)を実施します。 ・全館おはなし会の実施内容を標準化します。	・27年4月より中央図書館では1・2歳児向けおはなし会の回数を月1回から2回に増加し、9月よりひばりが丘図書館では3歳児以上向けおはなしひろばの回数を増加しました。実績としては全館のおはなし会回数が前年度比37回増の391回になりましたが、参加者数は前年比64人減の4,297人となりました。今後要因を検証するとともに、PRの工夫と強化を図ります。 ・全館おはなし会の実施内容(プログラム)の再確認、精査を行い、絵本の読み聞かせやわらべうた等、子どもと本を結び付けるために、プログラムに取り入れるべき内容を明文化しました。「図書館」がおはなし会を実施する意味を再認識すること、担当や実演者が変わっても、また市内のどの館でも、子どもたちに一定の水準のおはなし会を提供することを目的として、また、おはなし会の記録様式のフォーマットを全館同一にし、記録の共有化を図りました。	・参加者数の減少は残念です。参加してくる子どもの年令が低くなっていますのでしっかり要因を検証し、工夫と強化することを期待します。 ・おはなし会は市民と本を結ぶための企画ですから、おはなしのみで終わるだけでなく、読み聞かせた本、わらべうたの本、語られた本など展示し、参加者、来館者が手にとれるような工夫も必要です。 ・ボランティアと職員の役割の確認や共通理解を図るため、実演者交流会の実施を検討することを提案します。
	10 ・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォローアップ事業を3歳児健診時に実施します。	・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォローアップ事業を3歳児健診時に実施します。	・フォロー事業(※)の29年4月実施開始に向け、調査を実施します。 ※「第3期西東京市子ども読書活動推進計画」により、事業名を「フォローアップ事業」から「フォロー事業」に変更しました。	・実施に先がけ、会場となる3歳児健診の見学、健康課担当者との打合せを行いました。事業を行う流れを確認し、事業計画作成の検討を始めました。	・3歳児健診後、図書館の講座やおはなし会などで保護者へのフォロー事業等発展させるなど、工夫していただきたい。 ・フォロー事業開催については、「第3期子ども読書活動推進計画」では、親子で出かけていく市内施設への働きかけも図書館で行っていく方針であり、地域子育て支援センターなどとのコラボレーションも視野に入れていただきたい。
4 地域・行政資料サービス	11 地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。	・第2次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。	・新聞折込広告の電子化を実施し館内専用パソコンで公開します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を進めます。	・衣食住等生活に密着し、地域の経済や風俗等時勢を読み取ることの出来る貴重資料として収集している新聞折込広告のうち、開館以来20年間(1975年4月から1999年3月まで)に収集している38,148枚(画像数67,234件)の電子化を実施しました。発行日やカテゴリー別に検索が可能になったことから、利用者の利便性が向上しました。 ・「デジタル西東京市」では、『縁(ゆかり)～西東京市ゆかりの文化人を紹介～』の電子ブックや、ゆかりの人150人の経歴、著作物の紹介、下野谷遺跡関連写真と所蔵する関連資料の紹介、40周年を迎えた田無・保谷の図書館の写真等、新たにコンテンツを追加した結果、トップページからのアクセスが1年間で23,000件を超えました。また、「西東京市関係新聞記事索引」については、収集記事が5,092(件/年)加わり、情報の公開を進めました。	・時間と手間がかかるが重要な仕事です。新聞折込み広告やスーパーのチラシなどは過去に遡って、日用品の価格や品物や種類が判る第一級資料です。 ・新聞記事も地域の記事を集めたものは国会図書館や大新聞の縮刷版でも出てこないのが貴重な資料です。継続し、充実していただきたい。 ・新聞折込広告の電子化は、他の地域の図書館にはないユニークな取り組みなので、一時期だけではなく長期間にわたって継続的に行っていただきたい。
	12 西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実努めます。	・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。 ・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。 ・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。	・ゆかりの人著作物の充実努めます。	・図書館が著作物を所蔵する西東京市ゆかりの文化人を紹介する冊子『縁(ゆかり)～西東京市ゆかりの文化人を紹介～』を作成するにあたり、絶版や出版社品切れとなっている著作物を古書店等から入手し、貸出用として中央図書館開架室へ複本を整備する等、コーナーの充実を図りました。	・ゆかりの人の著作物の充実は今後も進めていただきたい。 ・絶版や出版社品切れとなっている著作物の所蔵は、西東京市図書館の役割として重要であり、評価できます。これらの資料については、寄贈の受け入れなどの活用を望みます。
	13 西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。	相談、支援、調査、事業開催に努めます。	・ゆかりの人情報の発信	・西東京市ゆかりの文化人を紹介する冊子『縁(ゆかり)』の作成にあたり、表紙には、下野谷遺跡を始めとする市内各所を描いた切り絵を採用しました。同時に、西東京市図書館開館40周年記念「縁(ゆかり)」講演会を4回(作品展同時開催1回)実施し、参加者延べ人数409人となりました。また中央図書館では著作物やインタビュー取材時のサイン色紙等関係資料の展示を行いました。図書館ホームページに「西東京市縁(ゆかり)の方紹介コーナー」を新設し、市内外へ向けて西東京市ゆかりの人情報の発信を行いました。	・成果を評価するとともに、今後の継続を期待します。 ・時代は移り変わるがその時代毎の人物を記録しておく事は重要であり、人材資料として充実を望みます。

	【事業内容】	【5年間の獲得目標(26～30年度)】	27年度目標	図書館評価(一次評価)	図書館協議会評価(二次評価)
5 ハン ディ キャ ッ プ サ ー ビ ス	14 デিজリー図書の作製を進めます。目標800タイトルのうち、前期計画期間の5年間で450タイトルのデিজリー図書を作成しました。今後5年間に350タイトルを作成します。	今後5年間で350タイトルのデিজリー図書を作製します。	26年度同様に65タイトル作製します。	47タイトルのデিজリー図書が完成しました。目標達成率は72%でした。目標達成に至らなかった原因は、7月にデিজリー編集・録音用機器等の入替えがあり、新しい機器に習熟する時間を必要としたためです。内容面の充実については、毎年利用者交流会を実施し直接利用者からの要望を聞くことによって、デিজリー図書作製に反映させています。	・デিজリー図書の利用者からの要望について、一般の関心を掘り起こすためにも、広くお知らせすることを提案します。
	15 国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスに登録し、作製したデিজリー図書をアップロードして、全国の図書館や点字図書館に資料の提供を行います。	利用者への資料の貸出しを含め、情報提供を拡大するため、デিজリー図書800タイトルのアップロードを目指します。	国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスの申請を行い、西東京市民および全国の利用者へ情報提供できる環境を整えます。	国立国会図書館視覚障害者等用データの提供の登録と、送信サービスが完了し、西東京市図書館作製のデিজリー図書をアップロードするための準備を進めています。	・作製されたデিজリー図書の日も早いアップロードを期待したい。
	16 宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。	宅配事業を推進するため、宅配希望者80名の登録を目標とします。	来館困難者(高齢者等も含む)を対象とし、市民ボランティアを活用した宅配サービスの実施計画を作成し、PR方法を検討していきます。	・市民ボランティアを活用するにあたり、必要な事項を整理し、「ハンディキャップサービス実施要領」を作成しました。28年度の実施に向けた環境整備を行っていきます。	・宅配サービスが個人情報の保護に留意し、安全に実施することを希望します。
	17 多文化サービスの検討と事業整備を実施します。	多文化サービスの事業開始を目指します。	図書館内の他の部門との協議を行います。	26年度に他自治体の調査を実施し、多摩地域図書館の実態を把握しました。全部門に関係するサービスとして捉え協議を始めました。資料、サービス、人について、共通認識を図るため先進自治体からの事情聴取を行い、次年度の計画を作成しました。	・市内の学校・保育園・幼稚園には外国籍の子ども、親が外国籍の人が増えている感があります。他部門との協議の中で、特に子ども・子育て家庭への図書館ならではのサービスを検討・実行していただきたい。 ・単に外国語の文献を集めるのではなく市内在住の外国人による催しやプレゼンテーションやパフォーマンスなどの企画を関係機関と共同で行うことを提案します。